



令和8年度当初予算案について (情報分野の全体像)

令和8年2月13日

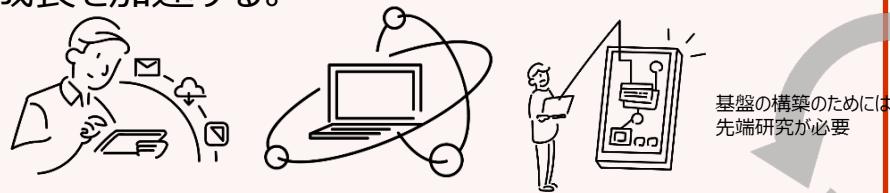
情報委員会AI for Scienceを支える研究データの管理・利活用と流通の在り方ワーキンググループ
研究振興局参事官（情報担当）付

情報分野の全体像

※令和8年度当初予算額（案）を記載。((内は令和7年度当初予算額、[]内は令和7年度補正予算額)

次世代社会を切り拓く 先端的な情報科学技術の研究開発

新たなイノベーションの起爆剤となるAI等の最先端の情報科学技術に関する研究開発を推進し、情報科学による実社会の課題解決を図ることで、社会変革と経済成長を加速する。



基盤の構築のためには
先端研究が必要

- ・**生成AIモデルの透明性・信頼性の確保に向けた研究開発拠点形成**
：8億円（8億円）[47億円]
- ・**AIP：人工知能／ビッグデータ／IoT／サイバーセキュリティ統合プロジェクト**
：122億円（112億円）
- ・**AI for Scienceによる科学研究革新プログラム**：[370億円]
- ・**Society 5.0実現化研究拠点支援事業**：5億円（6億円）
- ・**高度統計人材育成強化拠点形成事業**：2億円（2億円）
- ・**情報通信科学・イノベーション基盤創出（CRONOS）**
：20億円（13億円）



Society 5.0実現化
研究拠点支援事業

次世代の研究開発を支える 情報基盤の運用、高度化、開発・整備

研究データの保存・管理、流通、活用を支える**研究データ基盤、流通基盤、計算基盤**の一体的かつ安定的な運用、及びこれらの情報基盤の更なる高度化や開発・整備を通じて、あらゆる分野における研究開発を下支えする。

先端研究が普遍化することにより基盤となる



富岳（ふがく）

- ・**AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業**
：11億円（11億円）[5億円]
- ・**SINET（学術情報ネットワーク）の運営とセキュリティの確保**
：340億円の内数（340億円の内数）
- ・**スーパーコンピュータ「富岳」及び革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ（HPCI）の運営**
：167億円（173億円）[11億円]
- ・**AI for Scienceに不可欠な計算基盤の環境整備**：[76億円]
- ・**「富岳」の次世代となる新たなフラッグシップシステムの開発・整備**
：10億円（8億円）[373億円]
- ・**科学技術情報連携・流通促進事業**：31億円（31億円）[4億円]

※その他、学術情報流通に関する課題への対応（大学図書館等）を実施

「AI for Science」による科学研究の革新

令和8年度予算額（案）

193億円

(前年度予算額)

189億円

※運営費交付金中の推計額含む



現状・課題・事業目的

- 近年、AIを科学研究に組み込むことで、研究の範囲やスピードに飛躍的向上をもたらす「AI for Science」が、創造性・効率性などの観点で科学研究の在り方に急速かつ抜本的な変革をもたらしつつある。
- “科学の再興”を掲げる我が国として、AI法※の成立や急速に進展する国際潮流を踏まえ、日本固有の強みを生かした分野横断的・組織横断的な「AI for Science」の先導的実装に取り組むことが喫緊の課題。
- これにより、多くの意欲ある研究者及び先端的研究リソースのポテンシャルを最大化する科学研究システムの革新を実現し、更には産学官において広範に実装することで、我が国の研究力・国際競争力の抜本的強化につなげる。

事業内容：四つの柱

※人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律（令和7年6月一部施行、令和7年9月1日全面施行）
※[]内は令和7年度補正予算額

◆ AI駆動型研究開発の強化 180億円（177億円）[490億円]

<AI基盤モデルの研究開発やデータの充実>

- 171億円（169億円）[443億円]
ライフ分野等の特定の分野に固有の強みを持つ科学研究向けAI基盤モデル開発や、マテリアルデータ基盤の充実強化等を加速。
- 科学研究向けAI基盤モデルの開発・共用（TRIP-AGIS）
25億円（25億円）[28億円]
 - AI for Scienceを加速するマテリアル研究開発の変革
49億円（50億円）[1億円]
 - AI for Scienceのユースケース創出に向けたライフ分野の研究開発の推進
97億円（95億円）[44億円]
 - AI for Scienceによる科学研究革新プログラム
[370億円]



AI for Science
- 科学研究の革新 -

◆ 「AI for Science」を支える次世代情報基盤の構築

科学研究向けAI基盤モデルの開発に不可欠な計算基盤（富岳NEXT・HPCIシステム等）の開発・整備、運用や、今後大幅な増大が見込まれる研究データの保存・管理、流通を安定的に支える研究データ基盤と流通基盤の強化を実施。

- AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業
11億円（11億円）[5億円]
- AI for Scienceに不可欠な計算基盤の環境整備
[76億円]
- スーパー・コンピュータ「富岳」及び革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ（HPCI）の運営及び富岳NEXTの開発・整備
177億円の内数（181億円の内数）[385億円の内数]
- 学術情報ネットワーク（SINET）の運用
340億円の内数（340億円の内数）[92億円の内数]

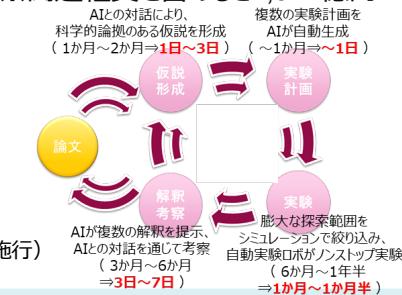
※予算額（案）の総額には含まない



令和7年度補正予算額

1,143億円

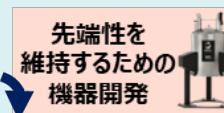
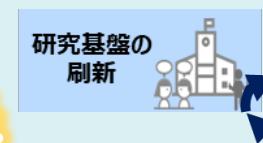
※関連経費を含めると1,527億円



◆ 自動・自律・遠隔化による研究データ創出・活用の高効率化 2億円[572億円]

AI駆動型研究に不可欠な高品質かつ高価値な計測データの高速かつ大規模な創出、及びその質的向上と量的拡充を図りつつ、先端研究設備・機器の整備・共用・高度化や、大規模集積拠点の形成を促進。

- 大規模集積研究システム形成先導プログラム
2億円[42億円]（新規）
最先端の研究設備を集積し高度かつ高効率な研究環境を実現する拠点形成により、AI時代にふさわしい研究システムの変革を先導
- 先端研究基盤刷新事業(EPOCH)
[530億円]
我が国の研究基盤を刷新し、若手を含めた全国の研究者が挑戦できる魅力的な研究環境を実現するため、先端的な研究設備・機器の整備・共用・高度化を推進



マテリアルズ・イノベーション・ファクトリー
(英国・リバプール大学)

出典 : <https://www.liverpool.ac.uk/materials-innovation-factory/>

研究力の抜本的強化
「科学の再興」へ

◆ 世界を先導する戦略的な産学・国際連携

AI for Scienceを世界的にリードする国内外のトップレベル機関との共同研究開発など、戦略的な産学・国際連携体制を構築・強化することで、世界に伍する「AI for Science」プラットフォームの実装を実現し、国際プレゼンスの向上に貢献。

- 理化学研究所における米国・アルゴンヌ国立研究所との連携
(科学研究向けAI基盤モデルの開発・共用（TRIP-AGIS）において実施
25億円の内数（25億円の内数）[28億円の内数])



※AI for Scienceを支える幅広い人材の育成を併せて推進。

（担当：研究振興局参事官（情報担当）付、科学技術・学術政策局参事官（研究環境担当）付、研究振興局 基礎・基盤研究課、大学研究基盤整備課、ライフサイエンス課、参事官（ナノテクノロジー・物質・材料担当）付）